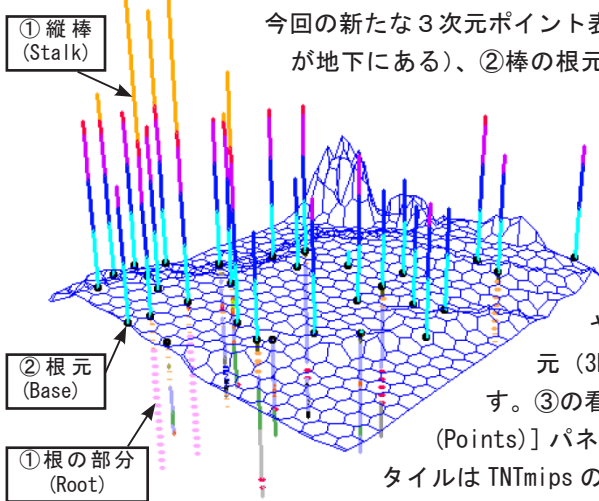


# ポイントの積み上げ縦棒表示

多くの情報がポイントデータに関連付けられていることがあります。今回 TNTmips に、複数の属性情報をポイントに表示する機能が追加されました。ポイントの属性を、選択したフィールドを使って異なるスタイリングで、高さや標高を基準にして、3次元表面上や下にラインとして表示することができます。この機能を利用するにあたって、地表面を用意する必要はありません—地表面が与えられなければ、平坦の上に表示されます。

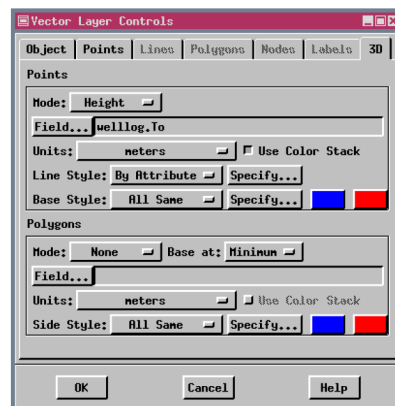


今回の新たな3次元ポイント表示は、3つの要素から構成されます：①縦棒または根の部分（棒が地下にある）、②棒の根元及び③棒の上の看板の部分です。これらの構成要素はそれぞれ、

異なる描画スタイル（「全て同じ (All Same)」、「属性を使用 (By Attribute)」、「主題（テーマ）を使用 (By Theme)」、「スクリプトによる (By Script)」）を使うことができます。

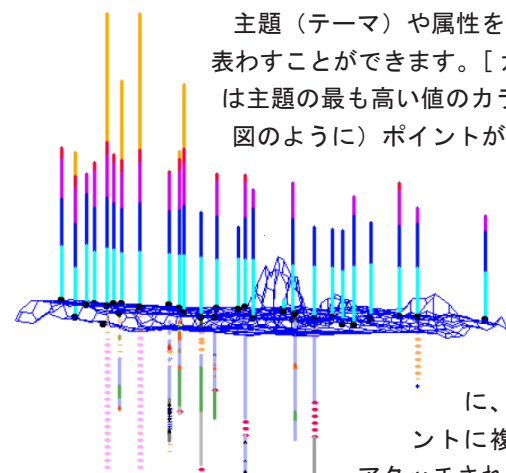
①の縦棒と②の根元のスタイルは、〈ベクタレイヤコントロール〉の[3次元元 (3D)]パネルで指定できます。③の看板のシンボルは[ポイント (Points)]パネルで選択できます。棒のスタイルは TNTmips のラインのスタイルを利用したり、必要であれば新たにスタイルを作ること

も可能です。沢山ある標準のラインスタイルから選択することもできますし、既存のスタイルオブジェクトからラインパターンをコピーして使うこともできます。



可能です。沢山ある標準のラインスタイルから選択することもできますし、既存のスタイルオブジェクトからラインパターンをコピーして使うこともできます。

主題（テーマ）や属性を使って表示するとき、追加オプションであるカラースタックを使って棒を表わすことができます。[カラースタックを使用 (Use Color Stack)]のトグルがオフだと、縦棒全体は主題の最も高い値のカラーで描かれます。[カラースタックを使用]トグルをオンにすると、（左図のように）ポイントが通過するそれぞれのテーマクラスが棒に表示されます。[カラースタックを使用]をオフにして「属性を使用」を使って表示する場合は、ポイントにアタッチされた先頭レコードの属性値が棒全体のスタイルとして使われます。トグルがオンの場合、高さや標高の累積値に従ってアタッチされたレコード全てが、ラインの部分部分に割り当てられます。棒

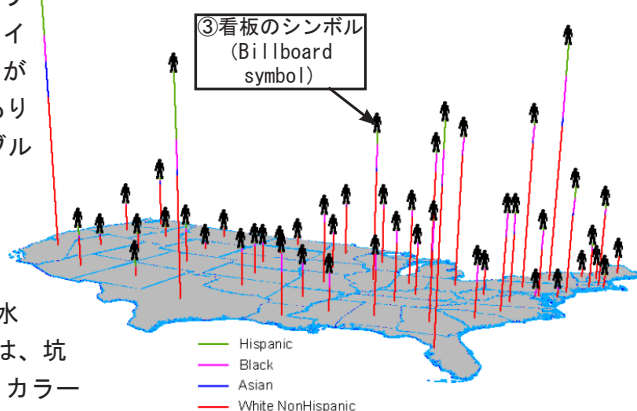


のカラースタック表示に必要な累積的なデータは、ここに示す坑井の検層情報のように、それぞれのポイントに複数のレコードがアタッチされている必要があります（各高さや標高範囲毎に値を持つ）。別のクラステーブルが必要です。

別のクラステーブルが必要です。

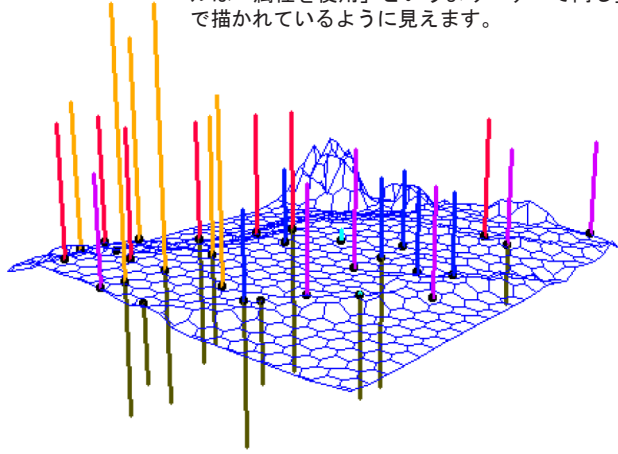
左上の図を作るのに、同じベクタオブジェクトを2回使用しています。異なるフィールドを使って、高さや棒のスタイルの関係を表わしています。地面の上は、各井戸の揚水容量がテーママップを使って表示されています。地面の下は、坑井の検層情報が「属性を使用」により表示されています。[カラースタックを使用]は両方の場合でオンになっています（右の人口の例についても同様）。

ポイントの縦棒表示は3次元グループを使う時のみ有効です。縦棒と根の長さは、高さ（地表面から上または下の距離）または標高（平均海水面からの距離）によって規定されます。長さは、グループ全体の[標高スケール(Elevation Scale)]の設定に影響されます。他の縦棒表示の例が裏のページに示されています。

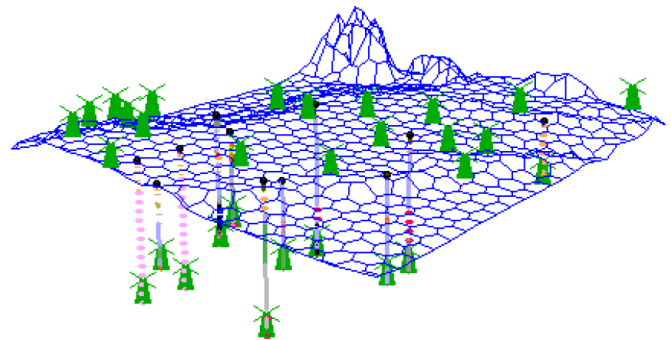
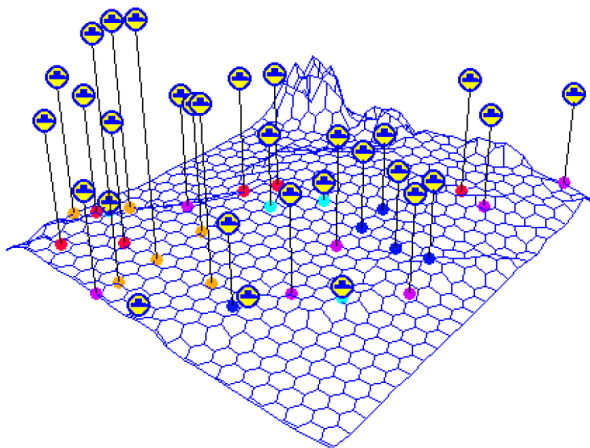
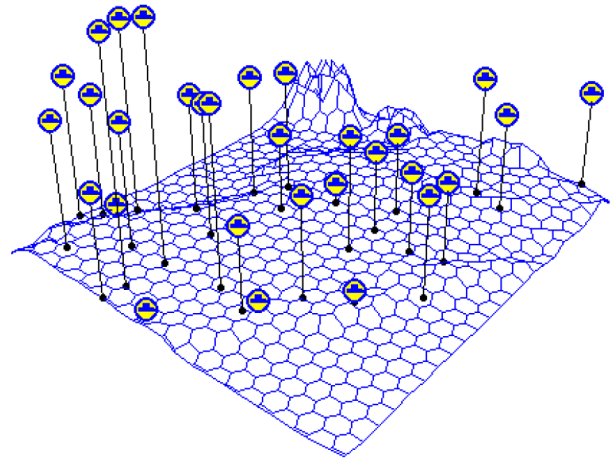


ある領域の空間データベース情報は、領域の中に置かれたポイントでしばしば与えられます。例えば米国人口データは、州の中心点によって与えられています。人口データは累積的なデータではないので、そのままでは縦棒に沿って属性を使って表示することができません。データを縦棒表示用の適切な形式に変換するための SML スクリプトがあり、それを使ってテーブルを変換することができます。このスクリプトについては別のカラープレートで説明されています（「累積値データの作成 (Creating Cumulative Data)」）。看板のシンボルの原点はシンボルの底に置いてください、そうしないと棒の一部が隠れて見えなくなります。

前ページと同じ井戸のポイント。カラースタックをオフにしています。坑井検層の先頭レコードは表土データなので、根のスタイルは「属性を使用」というより「すべて同じ」で描かれているように見えます。

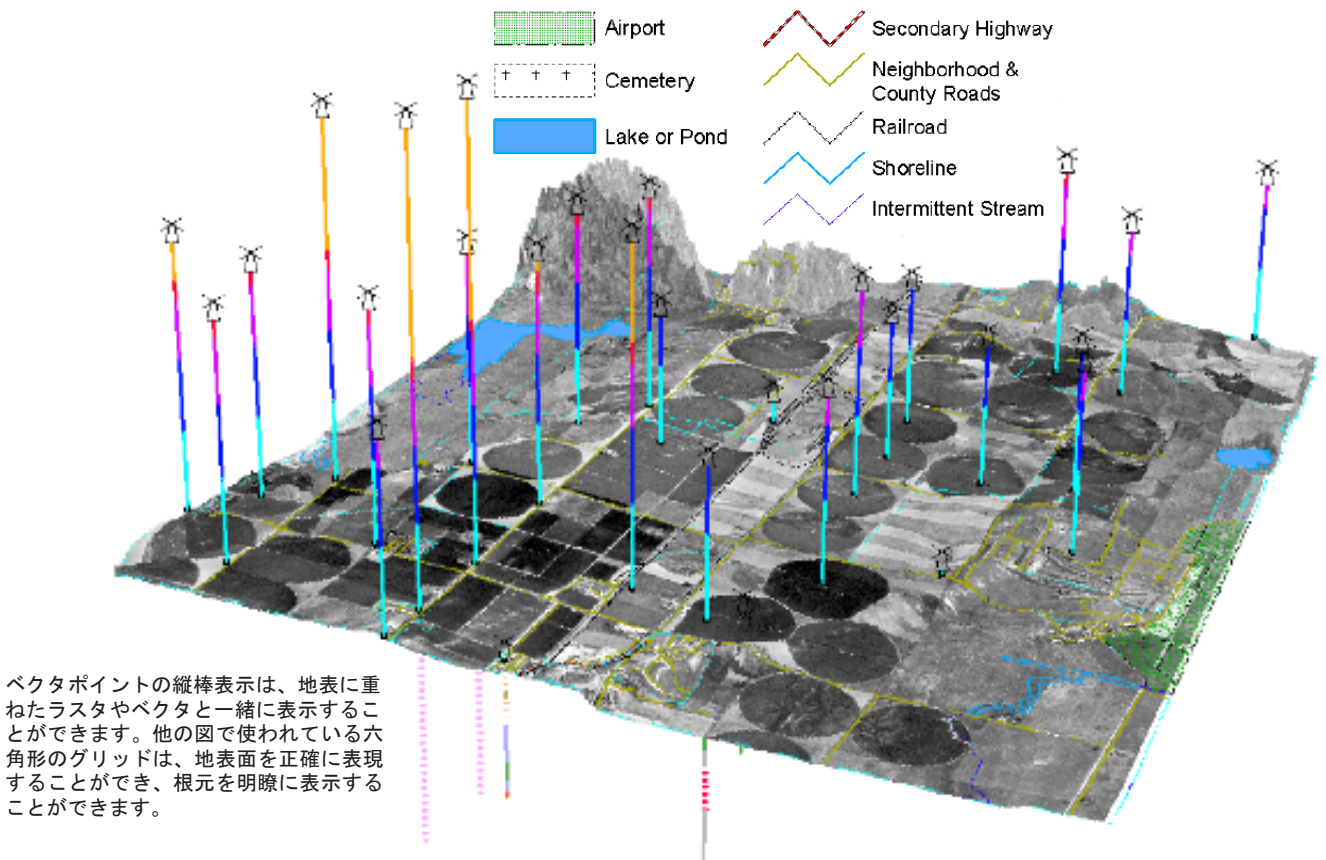


ポイントの位置を分かりやすく示すため、縦棒の頂点にシンボルを表示しました。縦棒の高さは井戸の揚水容量を表しています。



縦棒の根元のシンボルは、「全て同じ」、「属性を使用」、「主題（テーマ）を使用」、「スクリプトによる」など、全ての表示オプションが使えます。ここでは、根元のポイントシンボルは主題を使って描かれており、井戸の揚水容量を示しています。

根に対する看板シンボルは、地上の縦棒のように棒の先端ではなく、棒の下部に表示されます。ここでは、多くのポイントが検層情報を持っていないので、シンボルが地表面に表示されています。縦棒と根に対する看板シンボルは、それぞれのシンボルの一番下と一番上に表示上の原点（ホットスポット）を持ちます。従って、縦棒や根の一部がシンボルで覆い隠されることはありません。検層情報のないポイントのシンボルは地表面直下に見えます。



ベクタポイントの縦棒表示は、地表に重ねたラスタやベクタと一緒に表示することができます。他の図で使われている六角形のグリッドは、地表面を正確に表現することができ、根元を明瞭に表示することができます。